

平成29年度第1回食の安全・安心推進横浜会議リスクコミュニケーション検討部会

日 時	平成29年6月7日(水) 午後3時～午後5時
開催場所	松村ビル別館 603会議室
出席者	中嶋委員、森田委員、水谷委員、松崎委員、鳥越委員
欠席者	平川委員、田邊委員
開催形態	公開(傍聴者なし)
議 題	1 平成29年度食の安全を考えるシンポジウムについて 2 平成30年度リスクコミュニケーション事業について
決定事項	1 食の安全を考えるシンポジウムについて、登壇予定者を決定した。 2 シンポジウムパネリストとして、横浜会議委員の水谷委員が推薦された。 3 シンポジウムのチラシ内容について検討した。 4 平成30年度リスクコミュニケーション事業について実施時期等を検討した。
【開会】 議 事 1	平成29年度 食の安全を考えるシンポジウムについて
○中嶋部会長	今年度のシンポジウムの概要について、事務局からご説明をお願いします。
○事務局	資料に沿って説明
○中嶋部会長	パネリストのチェーンストア協会ですが、商品の安全性に関する認識はかなり高い方々だと思 いますが、輸入食品の具体的な問題、例えば、実際に食品を輸入する商社の取り組みなどについ てもお話しいただけるのでしょうか。
○事務局	前回、商社の方にお話しいただくか、消費者に近い方にお話しいただくかという議論になり、 やはり、消費者に近い立場でお話しいただいたほうが良いということで、チェーンストア協会に 声をかけさせていただいています。食品を輸入する上で商社の取り組みなどについて伺うことが ありますということをお伝えして、適任者を選んでいただきたいと思います。
○水谷委員	毎日新聞の小島さんは、どのようなお話をされるのでしょうかね。新聞に載るようなお話なのか、 そういうのでないのか楽しみにしています。
○事務局	国のリスコミではコーディネーターをやられており、皆さんの意見を引き出す側でしたが、今 回は伝える立場でのご意見をお願いしたいと考えています。伝えることはとても重要ですし、伝 え方によっては、こういう可能性があるというような話が聞けるのかなと思っています。
○中嶋部会長	パネリストの消費者代表として、うちの委員からもどなたか1人出ていただきたいと思いますと思っ ています。パネリスト6人と結構多いのですが時間はたっぷりありますし、会場に振って、会場から どんどん意見が出てくるのが本当はうれしいですね。水谷さん、どうですか。

○森田委員	私も水谷さんを推薦します。
○松崎委員	消費者代表というと、私たちも含めて毎回女性ばかりなので、水谷さんにぜひお願いしたいと思います。
○水谷委員	では、こころよくお受けします。パネリストとして5分か10分しゃべるとのことですね。
○中嶋部会長	最初は、ご自身の意見なりを表明していただくという場になると思います。自分はどのような立場で、どういう事に関心があるか等をお話させていただきます。 次に、シンポジウムチラシの確認をしましょう。これはいつ公開されるのですか。
○事務局	チラシは9月から公開します。横浜市の広報9月号にお知らせを載せ、10月の初めぐらいに記者発表を行う予定です。
○中嶋部会長	シンポジウムの内容の説明が3行目から書いてありますが、もう少しインパクトのあるようなものはないですか。
○森田委員	そうですね。スーパーで輸入豚肉を買うときに、家族に対して少し負い目を感じることがあります。日本産は安全というのが自分の中ですごく大きく、テレビなどでも、商品を紹介するときにそういうふううたっていることが多く、皆さん輸入食品に対してマイナスイメージを持っていると思うので、そのあたりを刺激するような言葉が入るといいですね。
○松崎委員	それでしたら、輸入食品はそんなにみんな危ないのか。国産だったら本当に全部安心なのかというようなところが、出ると良いかと思います。
○森田委員	そうですね。前回の会議のときに、隣の畑の物だから安全とは限らないという話に私は妙に納得してしまって、輸入食品も安全じゃなくて、国産も安全じゃなかったら、では何を食べればいいのかと考えてしまいました。それで思ったのが、消費者が正しい知識を持つことが大事なので、国産でも安全でないものがあるということを含めて、参加者の皆さんに提供できたらいいのではないかと思います。
○事務局	例えば、輸入食品って不安だな、でも国産だったら絶対安全なのとか、そんなニュアンスですね。それで、食の安全についてみんな一緒に考えましょうとか、そういう結びですかね。
○中嶋部会長	いいですね。
○松崎委員	マスコミの影響は大きいですね。報道の仕方で私たちは右往左往してしまうところがあるので、今回、報道関係の方に入っただけで、どういう視点でそういうことを広くお知らせしているのかをお話しいただけるとすごくいいなと思います。
○事務局	それでは2行目のタイトル部分は、「輸入食品は不安なの?」、「国産だったら絶対安心?」、「食の安全について、もう一度一緒に考えましょう」でよろしいでしょうか。 あと、第1部のこの仮題は森田さんに決めていただくので動かさないのですが、第2部のこの意見交換会の①と②、このタイトルをもう少しご検討ください。

○水谷委員	そうですね。不安って何だという話ですね。何が不安なのですかというのがありましたね。
○事務局	初めに、皆さんが不安に思っている根拠とか、輸入食品の何が不安なのかをみんなで抽出できたらと思います。皆さんそれぞれ違うのかもしれないですが。
○水谷委員	何にとらわれているのかというところですね。そこをすっきりしないと、話の展開が出来ないかなと思います。例えば、輸入食品は水際で非常によくチェックしていると言われていたが、全数検査をやるわけではないのになぜ安全と言えるのだという素朴な質問が出たときに、私ら素人ではちょっと答え切れないなと思っています。
○事務局	その辺の疑問は検疫所の方に聞いてみてはいかがでしょうか。輸入食品がどうやって国内に流れてくるか、検疫所は何をやっているかをほとんどの方は知らないと思います。そこら辺のことも検疫所の方にお話しいただくのが一番いいと思います。どうやって入り、どうやってチェックしているというのがわからないから多分不安なのでしょうし、疑ってしまうというところもあると思うのです。
○鳥越委員	先ほど森田さんが、何となくマイナスイメージがあるとおっしゃっていましたが、どうしてマイナスイメージができてしまうのかなというところがありますね。
○森田委員	やはりマスコミの影響が大きいかなと思います。輸出前のオレンジなどに、発がん性のある防カビ剤をかけている映像などを見てしまうと、あれは食べたくないと思ってしまう。
○松崎委員	輸入食品と一口に言っても、国によってイメージの差がすごくありますね。そのあたりももう少し科学的な根拠に基づいた説明が少しあるとわかりやすいかなと思います。
○事務局	検疫所では、確か国別の違反率を出していたかと思いますが。違反率の高さなどを比較するとまたイメージと違う結果が見えてきたりします。そういうところは検疫所のデータで説明していただくのが一番かと思いますが。
○水谷委員	先般も言いましたけど、安全面が不安だと言って検査基準を上げていくということは、またどんどんコストをかけていくということですね。本当にそれが消費者にとってメリットのあることなのか。高いものでも受け入れるかということ、そうでもありませんから、その辺を、どの程度の折り合いをつけて世の中は回っているのだろうというのが大変興味あるところですね。
○中嶋部会長	確かに安全は必要なんだけど、検査頻度をあげると確かにコストがかかるし、その間流通はとまってしまう。そういう問題も提起してもいいと思います。どの辺が、価格的に一番リーズナブルで消費者が納得できるか。どちらかということ、トランスサイエンスの領域ですね。
○事務局	検疫所や横浜市の検査や監視業務も、安全を確保するために行っているわけですが、それだけでは消費者の方に安心していただける検査とは思われていないという部分でしょうね。
○中嶋部会長	第2部は、前半・後半と分けるのではなくて、こういう内容の意見交換をしますという位置づけにしたらどうですか。「輸入食品の不安を解消するために」になるのでしょうか。

○事務局	<p>安心をどう考えるかの話になりますので、「不安を解消するために」というタイトルだと、ちょっと行き過ぎてしまうかもしれないですね。</p>
○松崎委員	<p>チラシには①とか②とせず、文章でちょっと書けばいいかなと思います。多分、その不安にはこう向き合ったらどうかとか、こうも考えられるとか、話題ごとに進めることもあるでしょうし、そのほうがきっとやりやすいですね。</p>
○事務局	<p>意見交換時間を多くとりましたので二部制のような書きぶりをしましたが、タイトルを分けなくても、休憩を入れて、先ほどまでにしたものについてどうでしょうという書き方もできます。</p>
○中嶋部会長	<p>森田さんの話のあとは、休憩なしでそのまま意見交換に入ってしまうのですか。</p>
○事務局	<p>意見交換会の前には場面展開があります。演台を並べかえますので休憩を入れます。</p>
○中嶋部会長	<p>意見交換会は、森田さんの講演内容を皆さんがある程度頭に入れてから行われますね。その中で、自分はこのについて聞きたいというのがあれば、個別に出てくるという感じですね。</p>
○事務局	<p>森田さんの講演内容が共通認識として意見交換会がスタートすると思いますし、リスクに対する考え方というのも恐らく講演の中でお話があるかと思しますので、ある程度みんな入った上での意見交換になると思います。</p>
○松崎委員	<p>パネリストの皆さんを見れば、おおよそ、こんなことが聞けるのかなとか、こんなことを聞いてみようかと思いますが、チラシにはパネリストが出ないのですね。</p>
○中嶋部会長	<p>ああ、こんな人が来るのか、ということがわかれば、大体想像できますよね。</p>
○事務局	<p>では、意見交換会の部分を少し広げて、タイトルは「輸入食品の不安について考える」で、パネリストはどういう関係の人が来るといったことをチラシに盛り込むことにします。</p>
○中嶋部会長	<p>意見交換会というと、みんな言いつばなし聞きつばなしで、消化不良のようなものが多かったのですが、今回は意見を交換する時間を最優先したいと考えています。会場からの質問もあるかと思いますが、それも引き取って、個別の案件でしたら一番適任の人が答えるし、それをまた引き取って議論する場合もある。こんな感じのシンポジウムですね。</p>
○事務局	<p>シンポジウムについては、19日の本会議で中嶋部会長から報告していただきます。</p>
議 事 2	<p>平成30年度 リスクコミュニケーション事業について</p>
○事務局	<p>(資料に沿って説明)</p>
○中嶋部会長	<p>さあ、どうしますか。</p>

○水谷委員	場所を変えるというのはどうですか。港北の人に聞いたのですが、皆さん東京方面に関心が向いているので、余りこっちに来ない。そういう人たちを呼び込めば、参加者が増えるかなと思ったのですが。
○松崎委員	以前、ひまわりの郷の上大岡で実施したときは、ちょっと遠いと言われました。やはりこのあたりでやるのが一番来やすいかなと思います。
○中嶋部会長	開港記念会館で実施したこともありましたね。
○松崎委員	以前は分科会をやっていたので、部屋数が多い開港記念会館が便利でしたけど、今は分科会をやらないから、駅前のほうがいいかもしれません。
○中嶋部会長	分科会は、多いとき3つぐらいやっていましたね。メインの講演が終わったら、そこから分かれて分科会をやっていたので、あそこは便利でしたね。
○松崎委員	土曜日の開催でしたら、やはり社会福祉センターホールの方が皆さん喜ばれると思います。駅に近く、わかりやすいし、雨が降っても大丈夫です。
○中嶋部会長	場所は社会福祉センターでよろしいですね。
○事務局	では、社会福祉センターを予定します。次に時期については、いかがでしょうか。
○中嶋部会長	日曜日でなく、土曜日にしたのは何かあったのでしょうか。
○事務局	土曜日の午前中にしたのは、午後だと1日つぶしてしまうというのと、日曜日だとお仕事をもちの方が次の日大変だという配慮だったかと思います。
○水谷委員	土曜日の午後にショッピングなどのついでに来てもらえればという話もありました。
○事務局	提案ですが、10月27日、11月10日、17日のいずれも土曜日で調整させていただきたいと思います。想定はシンポジウム形式でよろしいですね。次にテーマについて御議論ください。
○水谷委員	栄養学というのかどうか、炭水化物をとりすぎたらいけないという話を聞いて本当なのかと思っています。ラーメンやパンはやめなさい。ご飯を食べなさいと医者が言うのですが、ずっと食べてきたのに、そんなことあるのでしょうか。脂肪のとり過ぎは何となく悪いと思いますが、炭水化物はよさそうに思います。個人的な興味の話なのですが、身近な話、要するにテレビでもやっているような話を聞いてみたいというのがあります。
○中嶋部会長	非常に興味があるお話ですけど、事務局的にはいかがでしょうか。
○事務局	食品衛生と結びつくものでしたら、例えば、栄養学と食品衛生とか。
○中嶋部会長	炭水化物とか糖とかですよね。低GI食品とか、ある程度ブームでやっている人は結構いるようですね。食品衛生とどう絡めるか。偏食・過食の安全性とかですか。

<p>○森田委員</p> <p>○中嶋部会長</p> <p>○事務局</p> <p>○中嶋部会長</p> <p>○事務局</p> <p>○中嶋部会長</p> <p>○事務局</p> <p>○中嶋部会長</p> <p>○事務局</p> <p>○中嶋部会</p> <p>【閉会】</p>	<p>生活習慣病と食品衛生、これは、ちょっと違いますか。</p> <p>これは中村先生が詳しい分野ですね。食品衛生のリスクコミュニケーションとして大丈夫であればですが、こういうのもおもしろいかもしれませんね。</p> <p>以前、「食の安全と健康を考える」というテーマでやっていたことがあります。食というものについて、栄養摂取の観点と食品衛生の観点でどう考えるというようなものなら、おかしくないのではないかと思います。</p> <p>平成30年度のリスクコミュニケーション事業は、実施時期が平成30年の10月27日、11月10日、17日、いずれも土曜日の午前中。場所は桜木町の社会福祉センターです。実施方法については、シンポジウム形式ですが、平成29年度のシンポジウム形式が好評であれば、来年度も意見交換の場を長くとするような方向にしてはどうかという意見がありました。テーマについては、今回は、食生活と安全性みたいな身近なテーマはどうかという提案がありました。</p> <p>テーマは、今日出た話をまとめておきます。生活に密着した食事と衛生とか、栄養のとり方と食品衛生とか、今日出た言葉を考えた上で本会議に提供していただけるようにします。</p> <p>今日の議題の2番目は先ほどまとめたとおりでよろしいですか。それを19日の本会議で私から報告するのですね。何か足りない部分は皆さん方も補足して、報告をお願いします。今日の議題は以上です。事務局から、何かありますか。</p> <p>シンポジウムで受付のお手伝いをさせていただくと助かります。よろしくお願いします。</p> <p>わかりました。ほかに何かございませんか。何もなければ、今日のリスクコミュニケーション検討部会はこれで終了します。どうも長時間ありがとうございました。</p>
<p>資 料</p> <p>特記事項</p>	<p>1 食の安全・安心推進横浜会議委員名簿</p> <p>2 平成29年度 食の安全を考えるシンポジウム概要（案）</p> <p>3 平成28年度第三回食の安全・安心推進横浜会議 会議録（抜粋）</p> <p>4 平成29年度 食の安全を考えるシンポジウムちらし（案）</p> <p>5 平成30年度リスクコミュニケーション事業について</p> <p>特記事項 なし</p>